

# 担当者を知っておくべき 財務分析の指標と手順

担当者がチェックすべき財務指標や、「正確に財務状況を把握するための注意点などを見ていく。」

**STEP 1** (安全性分析をしよう)

▼こんな指標をチェック!

- ・現預金比率
- ・流動比率
- ・当座比率
- ・経常収支比率 など

**企**業の財務分析をする際には、まず安全性分析から入るとよいだろう。対象企業の財務体質が良好かどうかアタリをつけておけば、その後に必要な項目に絞って分析できるためだ。

安全性分析による業況の良

し悪しは一概に基準値があるわけではない。現預金や当座資産と、借入残高とのバランスを見ながら判断していくとよいだろう。

## ゼロゼロ融資による 現預金の滞留も

### ・現預金比率

現預金比率は現預金÷流動負債で計算できる。突発的に流動負債の支払いが必要になった場合に対応可能な支払い能力を示し、現預金比率が高いほど短期的な支払能力が高い。

注意すべき点は、ゼロゼロ融資などによる現預金のふくらみだ。一般的に長期借入金

### ・当座比率と流動比率

企業の安全性分析で最も利用されているのが、当座比率と流動比率であろう。当座比率は企業の当座資産÷流動負債で算出される指標であり、現預金だけでなく他の流動資産も算出根拠に加えている指標である。

ただし、注意点もある。それは不良債権化した売上債権と有価証券だ。これらは回収可能性が低い資産のため当然現金化できる可能性も低く、計算に含めると正確な数値が算出できない。勘定科目を分析する際には、売掛金や有価証券の中には不良債権化したものがないか十分にチェックしよう。

損益計算書		貸借対照表	
(平成〇〇年〇〇月〇〇日)		(平成〇〇年〇〇月〇〇日 現在)	
目	金額	金額	科目
資本金	47,157,000	現金	現金
繰上利益剰余金	35,245,000	債権	債権
固定資産	1,200,000	流動負債	買掛金
流動資産	3,260,000	短期借入金	短期借入金
流動負債	5,000,000	長期借入金	長期借入金
純資産		負債	負債
総資産		総負債	総負債

図表1 当座比率と流動比率の違い

- ・当座比率…当座資産÷流動負債
- ・流動比率…流動資産÷流動負債

当座資産とは現預金の他に売掛金や有価証券など、短期間で現金化できる資産を加えたもの。流動資産の1つである棚卸資産を含まない

→正確に安全性を分析するなら当座比率!

(出所) 筆者作成

る。当座比率の当座資産の他に、棚卸資産や未収金などの流動資産も加えた指標だ。流動資産には、不良在庫のように固定化しているものや回収不能なものも含まれていることが多い。当座資産同様、不良化しているものがないか十分に注意する必要がある。

とまずざっくりと安全性を見たいときは流動比率を確認し、より正確に見極めたい場合は当座比率を見るといった使い分けができるだろう。

### ・経常収支比率

経常収支比率は経常収入÷経常支出で算出する。経常収入は売上高、売上債権増加額で、経常支出は、売上原価＋販管費＋棚卸資産増加額＋仕入債務増加額－減価償却費－引当金増加額で導く。

経常収支比率は比較的操作がしにくく、企業の資金繰りの実態がわかる。長期間100%を下回っていたり、直近期で100%を大幅に割り込んでいる場合は、資金繰りが厳しい可能性が高い。

## 自己資本比率では 固定資産評価額も注意

### ・自己資本比率

自己資本比率は自己資本÷総資本(総資産)で算出され

る。これは企業の中長期的な財務安全性を測定する指標であり、この指標が高いほど内部留保などの過去の利益が積み上げられているということになる。

企業の自己資本比率は毎年大きく変わるものではないため、活用するときは同業他社と比較するのが一般的だ。例えばTKC全国会の「TKC経営指標(BAST)」では、メールアドレスを登録すれば無料で各業種の経営指標の平均値が見られる。ぜひ積極的に活用したい。

自己資本比率においても、当座比率や流動比率と同様に不良化した資産には注意が必要である。確認する際には売掛金や棚卸資産、有価証券だけでなく、固定資産や投資その他の資産が適切な簿価になっているのかもチェックした

例えば「建物・機械設備が

適切に償却されているか」「土地の評価額は適正か(実態価格と乖離している場合は修正が必要か)」「投資有価証券は適切に評価替えされているか」などである。

すべての項目の適正値を1つずつ計算するのは大変なので、特に金額の大きいものに絞って適正な数値を算出していくのが効果的だろう。

安全性分析は金融機関が行う決算分析の中でも特に重要な要素である。短期間で倒産する可能性がないか、資金繰りに問題がないかを十分検討していきこう。

